

じんけん瓦版 第43号

発効日：2011年11月20日

発行：日本聖公会東京教区 人権委員会

第7回「日の丸・君が代」の強制に反対する祈りの会 カトリック 松浦司教をお迎えして

11月12日にカトリック大阪大司教区 松浦司教をお招きして、麴町イグナチオ教会で「日の丸・君が代」強制の即時中止を求め、強制に立ち向かう人、苦しむ人のために祈る」第7回祈りの会が開催されました。東京教区 2008年秋の定期教区会で「強制の即時中止を求める声明文が採択」され、祈りの会では「強制に苦しむ人々とともにあること」を基本に活動を続けていますが、昨年からは超教派に拡大し昨秋にはキリスト教団信濃町教会で開催しました。この間、聖公会だけでなく多くのキリスト者が苦しんでいることを知りました

東京都から始まった「強制」は全国、特に今年になって大阪府にも波及し、「教育基本条例」が大阪府維新の会により上程され、継続審議とはなりましたが、

全教員委員が反対、辞任を表明する事態となっています。

祈りの会では、大阪で本問題にも関わっていらっしゃるカトリック大阪大司教区 松浦 悟郎司教をお招きして、礼拝と懇談の時を持ちました。多くのカトリックの方も参加いただき感謝しています。



松浦悟郎司教

松浦司教は祈りの会のメッセージの中で、「日の丸・君が代」の戦後の歴史的な基本認識と最

近の動向を話された上で、私たちにとって重要な示唆をうけるお話しをいただきました。その中で、印象に残ったお話の一部だけを抜粋させていただきました。

皇帝のものは皇帝に、 神のものは神に

今日読んだ聖書、「皇帝の金貨」(マタイ伝 22 章 15 節)の解釈はともすれば(教会)と皇帝(社会)を分けて考えることに引用されることもあります。私は「憲法と法律」との関係に置き換えることもできるのではと思っています。もっとも大事にし、守らなければならない憲法、そして具体的な法律は憲法に反してはならないことが規定されています(憲法 98 条)。法律や行政はその時々で変化しますが、これをこの世の社会「皇帝」に、もっとも大切な憲法は「神」に置き換えることができるのではないのでしょうか。人間にとって最も大切な尊厳を規定する憲法を踏みにじってはならない、コインの表裏のように明確に分けて考えることが必要だと思います。

強制に反対すること、 話し合うこと

最後にお話ししたいことがあります。以前、戦争にも行った高齢の司祭と「日の丸・君が代」について話したことがあります。彼は、「私は日の丸・君が代が好き」だと言いましたが、私が強制の実態について話すと顔色が変わり、「何、強制するのか！大好きだけれど、強制するなら反対する。」と言われました。この考え方がベースにあるべきだと思います。

そして、そのことで多くの方とつながっていくこと、ゆっくり落ち着いて話し合っていくことができるのではないかと思います。

その後、司教を囲んで懇談会が開かれ、多くの方から質疑と意見表明がなされました。なぜ、教会は組織として「日の丸・君が代」が教義とは相反することを表明していただけないのか、そして進行している処分裁判等で明らかにしていただけないのか」という悲痛な声もありました。

私たちは、日の丸・君が代の

持つ歴史と本質的な問題点を認識しつつ、松浦司教も指摘されたように、今あるもっとも大きな問題「強制にはなじまない」

という視点に立って小さいながら活動を続けていきたいと思えます。

(文責 人権委員 森田 信也)

~~~~~  
「英連邦戦没捕虜追悼礼拝」をご存知ですか？

司祭 大森明彦 (八王子復活教会)

8月第1土曜日 11:00に「英連邦戦没捕虜追悼礼拝」が行われています。場所は横浜市保土ヶ谷区狩場町の英連邦戦没者墓地です。この礼拝は1995年・敗戦後50年を機に、元日本陸軍通訳永瀬隆さんを中心に、雨宮剛さん、斉藤和明さんが呼びかけ人になって始まりました。私は2005年秋に聖公会神学院でたまたま知り合ったマックマン敏子さんの紹介で、2006年夏の礼拝に初めて参列してからこの礼拝に加わっています。

今年で第17回となる礼拝に8月6日に参列してきました。礼拝では日本基督教団の岡田仁牧師が追悼の辞を送り、参列するイギリス大使館、オーストラリア大使館、ニュージーランド大使館、カナダ大使館、パキスタ

ン大使館、オランダ大使館の代表者から挨拶の言葉がありました。礼拝を終えると、各国の墓地を回り、それぞれの記念碑の前で献花を捧げ、慰めの歌を歌い、追悼します。

この墓地には1800余名の戦没捕虜が眠っています。本来ならば、ジュネーブ協定に基づいて戦争捕虜として処遇され、戦争終結と共に母国に帰還することができたはずの人々です。それぞれの墓碑に目を向けると1942年12月8日前後の死者が多いことに気付きます。開戦1周年の頃に何か捕虜虐待に及ぶようなことがあったのかもしれませんが。太平洋戦争の開始から3ヶ月ほどで日本軍は30万人に上る連合軍兵士を捕虜にしましたが、ジュネーブ協定を批准し

ていない日本は捕虜を捕虜として処遇することをしませんでした。その多くは労務者として重労働を課され、日本内地に送られた白人捕虜は一種の見せ物だったと言われていました。

この礼拝が 8 月第 1 土曜日 11:00 と定められ、暑い盛りに、天候に左右されずに行われるのは、捕虜の痛みを知り、犠牲者

たちの声を聞くためです。そして、日本人が犯した過去の罪に目を背けず、しっかりとその罪を見据え、心からの謝罪をするためです。呼びかけ人の斉藤和明さんが 3 年前に急逝し、今年には永瀬隆さんが亡くなりました。しかし、呼びかけ人たちの思いは若い人たちに着実に受け継がれています。

## エイズ・デー 世界 AIDS・DAY 記念礼拝



日時：2011年12月4日（日） 午後5時  
場所：日本聖公会東京教区 牛込聖公会聖バルナバ教会  
(新宿区矢来町65)

日本聖公会東京教区人権委員会  
日本キリスト教団新宿コミュニティ教会  
カトリック中央協議会 HIV/AIDS デスク  
ルーテル HIV/AIDS プロジェクト 共催

(問い合わせ先：人権委員会 打田 (090-9649-0392))